

国立科学博物館巡回展「未来へつなぐ博物館」参考図

1. 展示什器

●展示ケース



【Sサイズ】



【Mサイズ】



【Lサイズ】

【ケースのサイズ・台数】

Sサイズ (W610×D410mm)	1台
Mサイズ (W810×D510mm)	8台
Lサイズ (W1210×D990mm)	1台

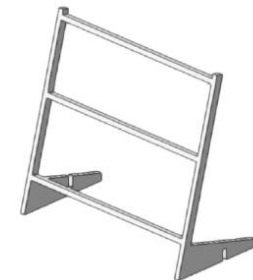
●挨拶及び章立ての解説パネル 7枚



●映像用サイネージ 4台



●木製バリケード (カルカロドントサウルス頭骨結界用)



●体験型展示 (4種類)

サイズ：W1200×D600×H600mm

くらべて発見！ヒトとチンパンジー

ヒトとチンパンジーの頭骨・手足の模型を触って比べ、異なる点や似ている点を体験する展示。



たくさん見ると世界が変わる

集まると違いが見えてくる「オオセンチコガネ」と、見る角度を変えて観察する「スッポンタケ」を解説した引き出し型の展示。



拡大模型でのぞくミクロの世界

見るための手段を知り、大きさを変えて見ることで、見え方が変わることを体験する展示。



ぐるり観察！生きもののすがた

回転台、虫メガネをヒントに、見る角度を変えることで新しい発見が生まれることを学ぶ展示。



2-1. 各展示物について

パネル (7枚)

プロローグ、エピローグ、各テーマ（集める、残す、調べる、伝える）について、それぞれ見出し・200字程度の解説テキスト・Q&Aで構成。Q&Aでは、テーマに関する問いと答えを易しい内容で示す。解説テキストを読みきれなくても、内容のエッセンスを持ち帰ってもらうことを意図。



標本・資料 (選択)

テーマごとに選択された各種分野の標本・資料と、その解説（ストーリー、キャプション、補足解説、キャッチコピーなど）で構成。各展示物はオムニバスで、単体で完結。様々なストーリーを通じて、テーマに関する博物館の営みにふれてもらい、標本・資料や博物館の価値を考えてもらうきっかけとする。



体験展示 (4種から選択)

展示内容に関連した4つの異なる「観察の工夫」を体験してもらい、見かたのコツや気づきのきっかけを持ち帰ることを目的にした体験展示。テーマに紐付けられていないので、自由に配置可能。



開催館の所蔵品 (任意)

開催館の標本・資料や展示などの活動を紹介するため、開催館の標本・資料・活動をテーマに沿った形で展示いただくことを奨励いたします。

2-2. 解説のイメージと展示物 ～「1章」の場合～



一部の解説文をよりやさしくし、お子さんでも理解しやすいようにしています。

パネル



章立て

1章「集める」

博物館では、さまざまな標本や資料を集めている。
科学系の博物館なら、生物・化石・岩石や・・・

Q&A

- ・何を集めるの？
- ・どうやって集めるの？
- ・どれだけ集めるの？

易

標本・展示



展示内解説

標本・資料ごとのエピソードを中心として展開。

解説テキスト
(ストーリー)

標本・資料
のキャプション

キャッチフレーズ
“レプリカも大事な
標本の一つです”

易

開催館の所蔵品を展示する場合は、開催館で所蔵品分のパネル・ラベルを作成いただきます。必要に応じて展示什器もご用意ください。



標本・資料は開催館側で選択

※パネル・ラベルのフォーマットデータは提供いたします。

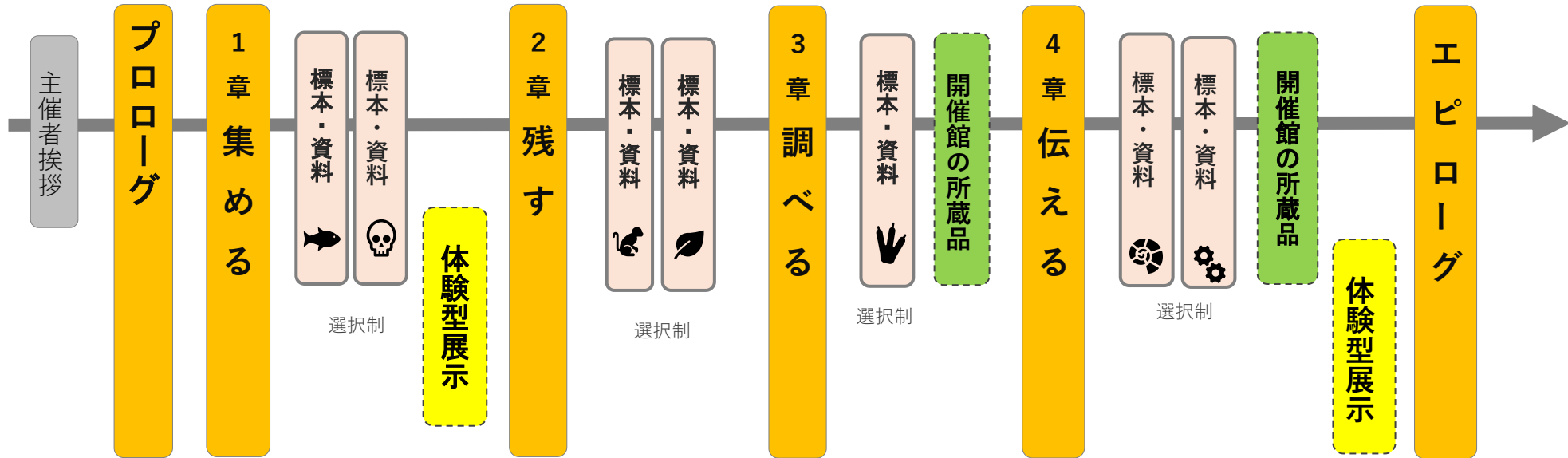
易

体験型展示

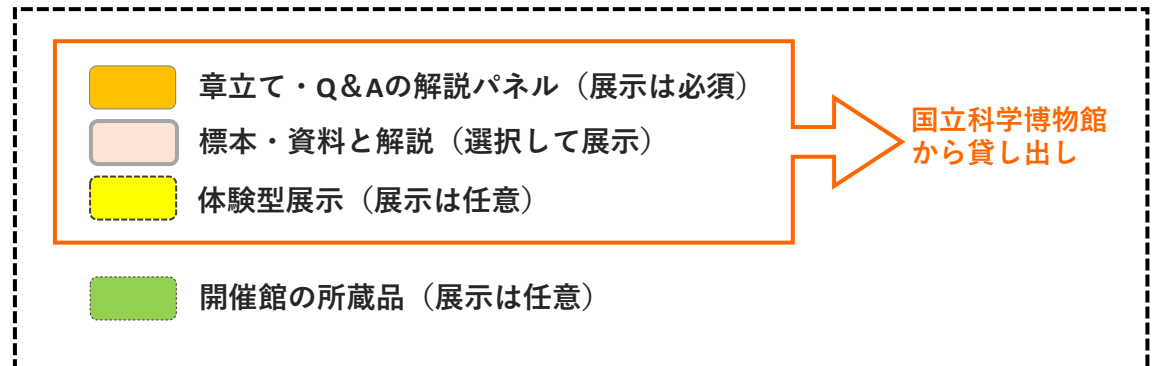
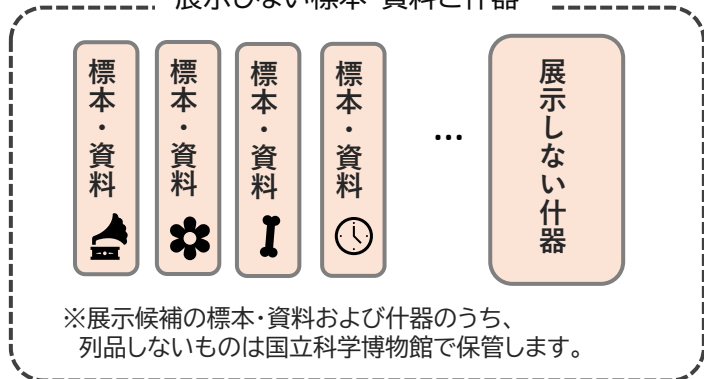


3. 展示構成のイメージ

※展示できる標本・資料数は会場の大きさや形状により異なります



展示しない標本・資料と什器



【例】総合博物館の展示構成案 (自然史・科学史の幅広い内容から標本・資料を選択)

